

第2学年図画工作科学習指導案



平成28年10月28日(木)5校時
武蔵村山市立第三小学校
第2学年3組23名
教諭 影浦知枝

研究主題 「人との関わりを大切にし、豊かに表現できる児童の育成」
～グローバル人材育成に向けたオリンピック・パラリンピック教育の充実～

1 題材名「ようこそ♪ シルエット・ミュージアムへ!!」表現(2)

2 題材の目標

オリンピック・パラリンピックの競技を知ることを通して、感じたことや想像したことを着色やコラージュなどの表現方法で作品に表す。

3 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
感じたり想像したりしたことを絵に表す活動を楽しもうとしている。	感じたり想像したことを絵に表すために好きな色を選んだり、面白い形を考えたりしている。	・ローラーや刷毛、スポンジで表し方を工夫している。 ・コラージュの素材を工夫して貼っている。	友人の作品を見る、まねるなどしながら、作品のよさや表し方のおもしろさに気付いている。

4 指導にあたって

(1) 題材について

本題材は、小学校学習指導要領図画工作科第1学年および第2学年の内容、表現(2)「ア. 感じたことや想像したことから、表したいことを見つけて表すこと」に基づき設定した。

第1次では、オリンピック・パラリンピックの競技について知ることを中心にした活動を行う。その際、映像を見せたり、実際に競技のポーズをとらせたり、シルエットクイズを行わせたりすることで、オリンピック・パラリンピックで行われた競技をより身近に感じさせる。また、競技ごとに特徴のある体の動かし方やフォームなどを意識させながら、シルエット製作のテーマにする競技を決めさせる。

第1次から第2次までは少し時間を空け、コラージュで使用する素材を家庭で集めさせ期間を設定する。第2次では、オリンピック・パラリンピックから想像したことや競技から受ける印象、出場国に関することなどを競技シルエットに表現させる。色付けは、ローラーや刷毛、スポンジを用いて行わせ、その後、オリンピック・パラリンピック競技に関する雑誌の切り抜きのコラージュを行わせる。さらに折り紙や色紙などを使って、強調したり、自分の想いを込めた形でデコレーションさせたりしながら作品を製作する。今回の作品は、2020年に行われる東京オリンピック・パラリンピックへの期待を込めた作品という共通認識のもとで製作させる。

第3次では、友人の作品を鑑賞する。まず、学級で発表の練習を行った後、学年全員で「シルエット・ミュージアム」をつくる。鑑賞する際、作品と同じポーズをとったり、なんの競技を作品にしたのかをシルエットクイズにしたりして、体全体を使って伝える活動を取り入れる。

この題材で児童に伝えたいことや考えさせたいことは、オリンピック・パラリンピックから感じたことや想像したことを色や形ではどのような表現が可能かということである。体全体を使って、大きな作品作りに挑んでいてもらいたい。

(2) 児童について

本学級は、表現することや活動することに意欲的に取り組む児童が多い。第2学年の1学期には、図画工作科「カラフルこっき de My World」で、自分の国をイメージした国旗を作るなど、オリンピックに親しむ活動を行った。また、学級活動「オリンピック博士になろう」では、オリンピックの理念を「オリンピック・パラリンピックパンフレット」を利用して学び、そのまとめとして五輪やオリンピックに関連することを一枚の紙に表現する活動を行った。

大多数の児童がオリンピック・パラリンピックに関心をもち、意欲的に活動に参加しているが、イメージを表現する方法が単調になりがちな児童や自分のイメージしたことを堂々と表現することをためらう児童など個別の支援を必要とする児童もいる。体を動かして表現したり、色からイメージを拡大させたりする活動を通して、自信をもって表現できるようにし、十分な達成感を味わわせるようにしたい。

5 研究主題に迫る手だて

(1) 研究仮説

〔仮説1〕オリンピック・パラリンピック教育の視点から授業の充実を図ることが、児童の視野を広げ、グローバルな社会を生きる人材となる素地を養うことに繋がるであろう。

〔仮説2〕児童一人一人が分かる授業を展開するために授業作りに授業のユニバーサルデザイン化の手法を取り入れ、ねらいの達成から逆算した授業作りを行えば、児童の学習意欲や主体的に学ぶ態度、豊かな表現力を養うことができるであろう。

(2) 目指す児童像

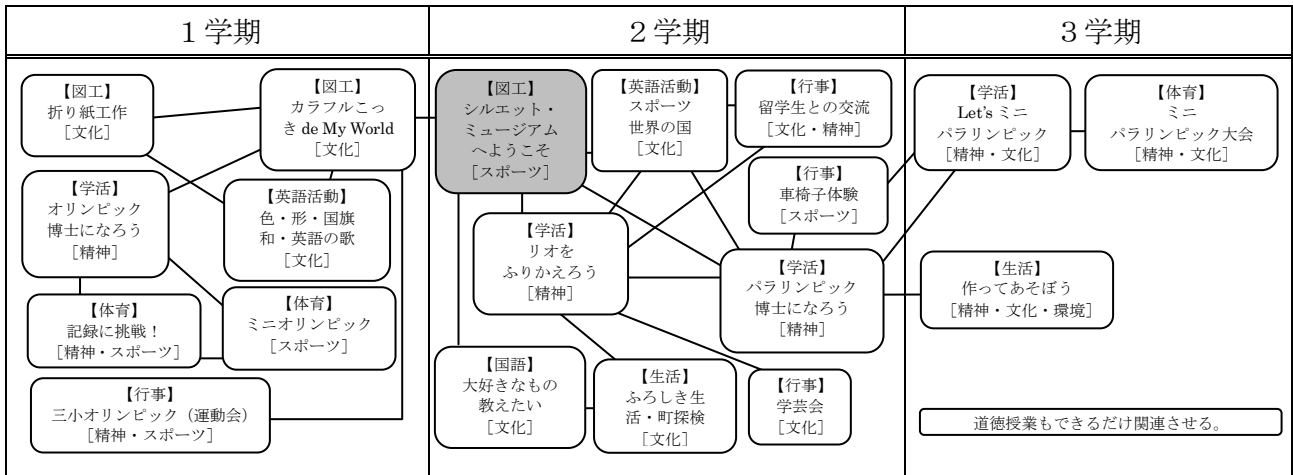
高学年	自他のよさを認め、主体的に相手と関わり合いながら、表現活動を工夫したり、自己の最善を尽くしたりすることができる児童。
中学年	自他のよさを感じ、相手との関わり合いを通して、目標に向かって、主体的に表現できる児童。
低学年	自分のよさを感じ、相手との関わりを大切にして、楽しく表現することができる児童。

(3) 本単元におけるオリンピック・パラリンピック教育理念との関連

重点的に育成する五つの資質		4つのテーマ×4つのアクション（本時）
スポーツ志向	スポーツへの興味関心 フェアプレーやチームワークの精神 心身ともに健全な人間に成長	スポーツ×学ぶ

※2学期は、ふろしき体験や全校のスポーツ車椅子体験、留学生との交流などがある。年間を通して、オリンピック・パラリンピック教育実施方針に沿った活動を意識して設定する。

(4) 他単元及び他教科との関連 (他教科・他領域や日常的な指導等との関連)



1 学期は、国旗の学習を中心に、英語活動、学級活動、図工などを関連付けた指導を行ってきた。また、学校全体でリオオリンピック・パラリンピック閉会式のセレモニーで使われる人文字撮影に参加協力したり、全校活動としての校内ちぎり絵国旗作りも行ったりした。

2 学期は、リオ大会直後であり、競技大会で感じたことを表現する活動として、図工でシルエット・ミュージアムを設定している。また、中学年以上が世界に目を向ける活動に取り組む中、2 年生はふるしきや剣玉など、伝統文化にも目を向け、体験を通して学ぶ機会を設定している。全校競技車椅子体験や留学生との交流、アスリートを招聘した授業を予定しているが、それらをオリンピック・パラリンピック精神に関する学習を中心にしながら関連させ、充実した学びにしていきたい。

本題材では、図画工作の学習を通し、4 つのテーマのうち、「スポーツ志向」に関わる学習を設定し、アクションは「学ぶ」を設定した。

(5) 本時の指導におけるユニバーサルデザインの視点について

本時の授業計画の組み立て (ねらいの達成から逆算) (2 年 3 組)

授業展開	活動の様子	授業のユニバーサルデザイン視点
ねらいの達成 ↓	コラージュで使うアスリートのシルエットを決める。	①競技のイメージを膨らませることができるように、選手の表情や、体の形に注目させて、自分が表現したいことに近いシルエットを選ばせる。【焦点化】 ②実際に体を動かして考えさせる。【共有化 動作化】 ③シルエットクイズで使った画像を近くで見せる。【個人差への対応】
展開後半 (製作中) ↓	コラージュがどのようなことかをとらえる。	①モデル作品を使って、製作過程や道具をイメージさせる。 ②いろいろな競技のシルエットを楽しみながら、自分の作品につかえそうなものを絞り込ませる。【スモールステップ化】
展開前半 (模索中) (試行中) ↓	競技名とシルエットと競技写真を見て、競技の名前や特徴をとらえる。	①競技に対する自分なりのイメージカラーを設定させる。 競技に関する形を自分なりに設定させる。【スモールステップ化】 ②シルエットクイズを楽しみながら、イメージを広げる。【共有化】 ③正解となる競技名は板書しておき、シルエットクイズの正解は選ばせる。【個人差への対応】

授業の導入	課題と手順を正しく捉える。	<p>①シルエット・ミュージアム学年発表会があることを知らせ、他のクラスもいっしょに作品発表会を開くことを知らせる。【見通しをもたせる】</p> <p>②自分で決めた競技に関する雑誌の切り抜きを集めてくることを知るとともに、モデル作品を見て、製作イメージを抱かせる。 【展開の構造化と視覚化による意欲喚起】</p> <p>④時間の流れを短冊で掲示し、45分間の流れの見通しをもたせる。 【展開の構造化による意欲喚起】</p>
-------	---------------	--

個別支援	<p>シルエットを選べない。</p> <p>競技のイメージを色や形で表せない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シルエットの動きを体で表現することで、競技の様子を捉えさせたり、作品見本を提示することで作品の仕上がりのイメージを持たせたりする。 ・視覚教材を使って、実際の競技の様子を捉えさせることで、色や形のイメージを膨らませる。
------	---	---

6 題材の指導計画（全6時間）

次	時	学習のねらい	学習活動・予想される児童の考え	評価・評価
1	1 本時	オリンピック・パラリンピックにはたくさんの競技があることを知り、作品を想像してシルエットを選ぶ。	<p>さまざまな競技を知り、製作の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな競技があるのかを知り、競技のイメージを色や形で考える。 ・シルエットクイズを行う。 ・製作するシルエットを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技のイメージを楽しみながら色や形で表現しようとしている。 <p>【関心・意欲・態度】</p>
2	2	競技のイメージに合った色や描画材を考え、着色する。	<p>競技のイメージを色や形で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ローラーや刷毛、スポンジなどの描画材料を用いて着色する。 ・スポンジを使うと、ブツブツした模様ができる。 ・ローラーや刷毛を使うと一気に着色できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現する競技のイメージを色や形で表現しようとしている <p>【発想・構想】</p>
	3	楽しみながらコラージュの素材を集める。	<p>製作する競技にあったコラージュの素材をはさみで切り取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラージュの素材を用意する。 ・コラージュの素材をはさみで切り取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみの使い方を意識しながら製作している。 <p>【技能】</p>
	4	競技をイメージしながら、コラージュの素材を作品に貼りつける。	<p>競技をイメージしながら、雑誌の切り抜きや画用紙、折り紙をコラージュする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌の切り抜きをコラージュする。 ・早く終わった児童は画用紙や折り紙で装飾する。 ・雑誌の切り抜きの周りに画用紙や折り紙を貼ると目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来上がりを確認しながら必要な材料・道具を選択し、製作している。 <p>【発想・構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のりをはじめでぬり、はる事ができている。 <p>【技能】</p>
3	5	作品の紹介文を考えたり、発表練習をしたりする。	<p>紹介文を考えたり、発表練習をしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品カードを作る。 ・発表練習を見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文を作ることができる。 <p>【発想・構想】</p>
	6	友人が製作した作品を鑑賞する。	<p>学年で作品を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を見合ったり、ポーズのまねをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを話したり、友人の話を開いたりするなどして、形や色、表し方の面白さに気付く。 <p>【鑑賞】</p>

7 本時の学習

(1) 本時の目標 (1/6時間扱い)

オリンピック・パラリンピック競技を想像し、自分の作品をイメージしてシルエットを選ぶ。

(2) 展開

過程	学習活動と予想される反応 ・予想される反応	●指導上の留意点 ◆個別の配慮 ◎評価【観点】(方法)	☆ユニバーサルデザインの視点
導入 5分	<p>1 作品見本を鑑賞し、単元の見通しをもつ。</p> <p>○何の競技の動きをイメージした作品でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操選手 ・飛んでいるところ 	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の学習の流れを提示する。 ●第3次の発表会の様子をつかませ、単元の見通しをもたせる。 ●作品見本から、何の競技をイメージした作品かを話し合わせる。 ●本時のめあてを提示する。 	<p>【焦点化】</p> <p>【視覚化による意欲喚起】</p> <p>【時間の構造化】</p>
展開 35分	<p>3 シルエットクイズをし、作品にしたいシルエットを選ぶ。 ・積極的に答えを発表する。</p> <p>4 競技のイメージを言葉に表す。 ○水泳のイメージを言葉で表すとどんな感じだろう。 ・すいすい。 ・魚みたい。 ・ざばざばすすむ。</p> <p>5 競技からイメージした言葉を色や形に置き換えて表す。 ○イメージした言葉を色や形でかいてみましょう。 ・水の水色。 ・すいすいしているから線。 ・魚の形。 ・水しぶきの形。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●シルエットを提示し、どの競技の時の選手の様子か考えさせる。 ●予め、競技名は板書に提示しておく。 ●正解は、写真を見ながら確認する。 ●挙げられた競技の中から、作品にするシルエットを選ばせる。 ●オリンピック・パラリンピックの映像を鑑賞し、イメージを考えさせる。 ●競技から連想する色・形・音などを言葉で考えさせる。 ◆イメージを言葉にすることが難しい児童には、友達の言葉のイメージを参考にさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ●形で表すことが難しいものは、色で表現させる。 ◎競技のイメージを楽しみながら色や形で表現しようとしている。【関心・意欲・態度】(ワークシート・行動観察) 	<p>【視覚化による意欲喚起】</p> <p>【スモールステップ化】</p> <p>【個人差への対応】</p> <p>【共有化に向けた手だて】</p> <p>【動作化】</p>
まとめ 5分	<p>6 交流する。 ○イメージした色や形を話合う。</p> <p>7 学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●隣同士で、自分がどんな理由で色や形を描いたかを伝え合わせる。 ●全体で、今日の活動の感想を伝え合わせる。 ●次回予告。 	<p>【共有化】</p>

8 板書計画

ようこそ♪ シルエット・ミュージアムへ！！					学習のながれ
めあて きょうぎのイメージを色や形であらわそう。					
(競技名)	(競技名)	(競技名)	(競技名)	(競技名)	
シルエット	シルエット	シルエット	シルエット	シルエット	
写真	写真	写真	写真	写真	
(競技名)	(競技名)	(競技名)	(競技名)	(競技名)	
シルエット	シルエット	シルエット	シルエット	シルエット	
写真	写真	写真	写真	写真	
ワークシートの見本					作品見本
ワークシートの見本					